令和３年度　都農町立 都農南小学校 自己評価書及び学校関係者評価書　評定『4:期待以上』『3:期待通り』『2:やや期待を下回る』『1:改善を要する』

評価項目	評価指標	評価する内容	学校の自己評価コメント 〇結果の考察・分析　■改善策等	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
学力向上	①「わかる・できる」授業に取り組んでいる。	・学力向上を目指した授業改善の実践 ・作文指導における作品の投稿 ・新聞を活用した授業実践（NIE 教育）	〇　「学びの見届け」や「学びの確認」を行うことができた。また、指導内容の精選を図り、「授業改善4+4のチェックポイント」を意識した授業に取り組んだ。 ■　次年度は、各教科における習得と活用を強化し、過去の諸テスト問題にも繰り返し取り組ませたい。 〇　宮日新聞「若い目」の投稿や MRT ラジオ「私たちの作文」への応募が見られた。 ■　作品応募には、温度差が見られたので次年度はバランスよく取り組み、新聞記事を活用した授業実践にも取り組ませたい。	保護者 2.5 児童 3.5 職員 2.9	3.3	・いつも宮日新聞の南小児童投稿を楽しみに見ています。児童の発表の場として大いに活用してもらいたい。 ・毎日、農作業をしながらラジオを聴いているのですが、MRT ラジオの「私たちの作文」で都農南小学校と聞くとうれしく思う。 ・子ども達の自信や意欲につながると思う。 ・宮日新聞で南小の名前をよく見るようになった。
	②図書館を利用した読書活動に取り組んでいる。	・読書指導 ・読書量 ・図書室管理	〇　読書月間に職員と保護者による、読み聞かせを実施することができた。 ■　読書量には学年差が見られた。読書意欲を高めるために、図書室利用と読書の時間確保に取り組ませたい。 〇　町の図書支援員が週１回入ることで、図書室の環境や設営に尽力していただけた。			・感染症対策をしながら、読書月間に保護者と先生による読み聞かせ実施は素晴らしい。 ・来て下さる保護者の方に感謝している。 ・図書室の本や町民図書館の本を、多くの子どもたちに読んでほしい。
	③児童は、家庭学習に取り組んでいる。	・頑張りカードの結果（学期１回） ・家庭学習（宿題、自学）	〇　家庭学習の充実を図るために、学級通信等で保護者へ頑張りカードや宿題・自学ノートの見届けの啓発を行った。 〇　学習内容を学級通信で家庭へ知らせた。 ■　家庭学習の意欲を高めるために、頑張る子どもへの賞讃活動を啓発していく。			・家庭学習の充実を図るには、保護者の自覚が必要であると思う。 ・今後も学級通信等で啓発していただきたい。また、自学に目覚める児童も期待できると思う。
	④授業でのタブレットの活用に取り組んでいる。	・タブレット端末の授業での活用 ・校内研修 ・保護者への啓発 ・町が配付している家庭用端末	〇　学校では、授業において積極的に端末を活用してきた。 〇　児童は、タブレットに触れる機会が増えてきている。 〇　職員のタブレット活用研修もおこなってきた。 ■　町が配付している家庭用端末の活用が滞って、使用せずに保管している家庭が見られる。 ■　今後は、学校の端末を持ち帰らせたり、町配付分のタブレットも活用しながらスキルアップを期待したい。			・正しい操作を指導していただき、皆が活用できるようにしてほしい。 ・タブレットを持ち帰り、オンライン授業の準備ができている。実際にオンライン授業となった時にどうなるのか気になる。 ・タブレットを積極的に活用しているんだなあと安心メールを見ながら感じていた。今後も期待したい。
豊かな心の育成	①生徒指導・特別支援教育について、組織的な対応に努めている。	・あいさつ運動 ・特別支援教育 ・SC、SSW 等の活用連携	〇　正門前でのあいさつ運動や玄関前での児童会のあいさつ運動に取り組み、元気良いあいさつが見られ始めた。 〇　中学校の特別支援教育研修会に全職員で参加し、支援教育の認識を深めることができた。 〇　関係機関（SCやSSW）との連携を図り、計画的な相談を実施することができた。SC の活用は、養護助教諭を中心に実効的な計画を立て、職員のカウンセリング力の充実も図ることができた。また、SSW とともに不登校の子どもへの支援を、見通しをもってアプローチすることができた。 ■　次年度も特別支援コーディネーターと担任の連携を図り、正確な実態把握に努め、全職員で特別支援教育のスキルアップを図りたい。	保護者 3.1 児童 3.5 職員 3.2	3.6	・元気な挨拶は、南小の伝統である。 ・地域ボランティア25名が見守りをしてくださっている。これからも学校と地域で「明るく元気なあいさつ」を目指して取り組んでほしい。 ・車で通ても、帽子をとってあいさつしてくれるので気持ちがよい。 ・挨拶の声が小さくなった。（マスクを付けているので、しょうがないのかもしれない。） ・「南小は、あいさつが良い」とよく聞く。 ・今後も、関係機関との連携を生かして相談しやすい環境をつくってほしい。
	②人権教育の常時指導に努めている。	・学校生活全般（全教科指導） ・校内研修	〇　教科指導や特別活動において人権感覚の育成を意識した授業実践に取り組んできた。また、本年度は、動物愛護センターより講師を招聘し4年生において「命の教育」についての授業を行った。 ■　次年度も「命の教育」について継続した指導実践に取組んでいきたい。 〇　人権同和教育推進委員（富高小河野教諭）を招き人権に関わる校内研修を行った。また、「どんぐり子ども診療所」の糸数先生の講話を活用した研修会を行い、職員の人権意識を高め、支援の在り方について認識を深めることができた。 ■　人権教育に関する資料（県教委作成資料）を活用した授業実践にも取り組ませていきたい。			・現在は、コロナ感染症で死者が増えており「命の大切さが」一番だと思います。命の教育について継続していただきたい。 ・コロナ禍で講師の先生に来て話をしていただくのは、難しいかもしれないが、たくさんの話を聴いて、子供達に少しでも分かってもらえるとよい。
	③いじめの未然防止と早期発見に努めている。	・教育相談の実態（心のアンケート）	〇　心のアンケートを毎月行い、悩みのある児童に教育相談を行ってきた。また、サポート委員会（いじめ不登校対策委員会）で児童の実態を全職員で共通理解することができた。 全児童を対象に行う教育相談は3回行うことができた。 〇 本校の、「いじめ防止基本方針」の見直しを行った。 ■　今後もさらにアンテナ（児童の見守りや指導する側の観察力）を高くして、子どもの実態把握に努め、組織的で効果的な生徒指導体制を構築させていきたい。			・毎朝、児童の様子を見ていると上級生が下級生をやさしく見守っている光景が見られる。 ・子どものいじめだけでなく、親からの虐待なども報道などで目にするのでアンテナを高くして、子どもの様子を見てほしい。 ・いじめをしてしまう、子どもさんの心のケアもきになってしまう。（家庭環境） ・いじめのない南小であってほしい。 ・全職員で共通理解していくことは良いと思う。

令和３年度　都農町立 都農南小学校 自己評価書及び学校関係者評価書　評定『4：期待以上』『3：期待通り』『2：やや期待を下回る』『1：改善を要する』

体力向上・健康増進	①規則正しい生活リズムを確立するための的確な指導を推進している。	・すこやか週間 ・親子歯磨き週間 ・学校保健委員会（教育講演会）	○　年間3回実施することができた。すこやか週間中においては、意識付けは図られるが、普段の日常生活においては、なかなか定着しない家庭が見られる。 ■　「早寝・早起・朝ごはん」の定着を図る啓発活動を進めながら、基本的な生活リズムを身に付けさせていきたい。 ○　歯磨き週間では、意識啓発に取り組んだり、保健だよりを活用したりして歯磨きの大切さを発信することができた。 ■　虫歯の治療率が、1月現在「76.5%」である。今後は、この実態を保護者へ知らせ、むし歯治療の大切さに関心をもたせるよう呼びかけていきたい。 ○　学校保健委員会を実施し、宮崎市の「どんぐり子ども診療所」の糸数先生を講師に招き「メディア情報と子どもの脳」についての講演会を行った。講義の前半は、児童も参加し、親子で話を聞ける良い機会となった。	保護者 2.5 児童 3.4 職員 3.0	3.3	・早寝、早起、朝ごはんは、基本的な生活リズムなので取組むと定着すると思う。 ・子ども達の生活リズムが気がかりである。 ・むし歯は、体の成長に悪影響をおよぼす事を保護者も自覚して、早めに治療するよう学校保健委員会で取組んでほしい。 ・コロナ禍でも、基本的な生活リズムを身につけられるといいと思う。
	②感染症や病気の予防を理解するための的確な指導を推進している。	・マスク着用や検温カードの取組 ・感染症に関わる日常指導	○　普段の学校生活では、朝の検温・不織布マスク着用率は、ほぼ100%に近い現状である。 ○　感染症の予防対策に努めながら、児童や保護者の意識向上に努めてきている。また、速やかな情報発信が感染予防対策につながると認識し、安心メールの活用（緊急時の配信方法・時間等）について保護者への周知を図ってきている。 ○　毎朝の家庭での検温習慣も定着してきているが、カード忘れは玄関前にて職員が検温し簡易検温カードを担任へ提出するようにしている。（健康観察時に担任が確認）			・児童は登下校時や地域でもマスクを着用しています。学校の指導に感謝します。・マスク着用は、「あたりまえ」の日常になってきている。マスク生活で不便な事もあるだろうけど、感染予防をとりつつ学校生活をおくってほしい。 ・今後も感染予防をがんばってほしい。
	③命を大切にするための安全教育について的確な指導を推進している。	・避難訓練 ・登下校の様子 ・地域での過ごし方	○　避難訓練（不審者対応・地震災害・火災）を実施することができたが、より実践的な訓練に取り組んでいきたい。 ○　地域の「南の風パトロール隊」との連携を図り、登下校の安全指導に取り組むことができた。（職員の立ち番含） ■　地域と学校の連携を図り、防犯を意識した安全な過ごし方について意識向上を図っていきたい。さらに、次年度は、防災士等との連携を取り入れた新たな防災教育に取り組んでいきたい。			・学校における避難訓練や防災教育に感謝している。 ・最近大きな地震があったが、家で起きた時や登下校時におきた時にどのようにした方が良いのか分かっているのでしょうか。 ・安心メールで定期的に訓練をしている様子が見られた。
地域連携	①地域資源を可能な範囲で活用し、キャリア教育を推進しながら地域との連携を図っている。	・地域学校協働本部との連携 ・校外学習（地域学習）	○　地域学校協働本部との連携を図り、地域人材や地域施設を活用した体験的学習活動に取り組むことができた。 ■ 地域学習には学年間の温度差があり、学年のバランスを考慮した、取り組みやすい計画を立てていく必要があるまた、教科に限らず、取り入れられる地域学習素材の発掘にも取り組んでいきたい。	保護者 2.9 職員 3.0	3.2	・都農町には、色々な隠れた財産があるので、コロナが終息したら大いに利用してほしい。 ・小学校の時から、地域にどんな仕事があるのか知るのは、良いと思う。 ・地域学習素材発掘に期待している。
	②各種便りや学校のホームページを活用して家庭や地域に情報を発信している。	・安心メールや学校ホームページの活用 ・学校からの情報発信（学校及び学年・学級便り）	○　学校の様子を定期的にホームページや学級通信で発信することができた。 ○　開封確認率の 100%を目指したが、現在の平均開封率は89%である。 ■　次年度以降は、学校の「ホームページ」や「安心メール」等の効果的な活用を推進し、紙媒体での発信をできるだけ少なくして、メール配信を主な発信手段としていきたい。 ■　学校運営協議会（コミュニティスクール）の立ち上げと連携強化に取り組んでいきたい。			・南小の「安心メール」を登録しているが、配信される情報を見て安心している。 ・保護者以外の町民には、なかなか見てもらえないので、月 1 回でも週報の中に学校の様子を載せてもらってはどうでしょうか。 ・ホームページを通じ、小さな事や授業風景を知られるので良いと思う。
学校運営への参画（職員）	①組織の一員として、同僚の職員と連携・協働しながら学校運営に積極的に参画している。	・校務分掌 ・学校行事 ・PTA 活動	○　前年度の教育課程の反省を生かした年間計画に沿った校務分掌の運営に努めることができた。 ○　行事等の運営面では、コロナ感染症対策を、全職員の連携と協力のもとに、実施することができた。 ■　職員は、PTA 各専門部に所属しているが、コロナ禍で活動自粛のため、部会がほとんど開かれず、活動（各専門部との連絡調整）する機会は、ほとんどなかった。（年 3 回の環境整備の日に参加）	職員 3.1	3.3	・素晴らしい学校運営が出来ていると思います。・継続してください。 ・PTA活動が、コロナ禍で、あまりできなかったので、先生達との交流ができなかった。
	②勤務時間を意識した効率的な業務の遂行と自己のキャリアプランをもとにした自分の教職人生や働き方を見直している。	・キャリアプラン ・自己啓発を含めた研修と修養	○　キャリアプランについて夏季休業中に研修会を行い、自己キャリアプランについて考える時間を設けた。 ○　職員室に職員図書コーナーを設け、教育図書（初等教育・情報教育の実践集）等の活用を図った。 ■　今後は、キャリアプランに基づいた目標を明確にし、働き方改革への意識改革を図りたい。			
	③人権感覚を意識した態度や行動を心がけている。	・教育活動における言動	○　児童や保護者にハラスメント相談員の周知をおこなった。また、コンプライアンス旬間には、チェックシートを活用して普段の言動や人権感覚のふり返りを行うことができた。 今後も継続していきたい。			

学校運営参画（PTA）	①PTA の一員として、できる限り学校運営に参画している。	・運動会への協力 ・参観日（懇談会） ・家庭教育学級	○　運動会においては、準備と参観受付等に、新しい取組みを取り入れたが、反省意見が多く寄せられたので次年度に生かしていきたい。 ■　下学年の参観率は高いが、上学年は低く、特に5・6年の参観率及び懇談率は、高いとは言えない。　学校全体の平均参観率は、84%で懇談率は、　52%である。（11月参観日記録より） ○　家庭教育学級において、保護者対象のタブレット端末活用研修会を 11 月に実施した。つの未来まちづくり推進機構から講師を3名招き、3日間に分けておこなった。 しかし、夜間（19:00～19:30）開催であったため参加者が少なかった。	保護者 2.9	3.0	・共稼ぎ家庭が増加し、参観日が問題になるが、親の意識向上を高めるようにしてほしい。 ・運動会の反省意見は、改善に繋げてください。 ・学校にあった感染予防を学校とPTAで話し合ってやってみてはどうでしょう。 ・参観日は、平日なので休みを取れない家庭があるのでしょうがないのでは。 ・家庭教育学級においては、（土・日・祝日）昼間に挑戦してみてはどうでしょう。特に新入生保護者対象（4 月中）
	② 都農南小が今以上に発展できるよう、できる限り協力している。	・PTA 環境整備の日（学期 1 回実施） ・PTA 専門部会	○　環境整備（奉仕作業）の参加率は高い。（2学期は親子での参加も見られた。） ＊1学期 PTA 奉仕作業　参加率（72%） ＊2学期 PTA 奉仕作業　参加率（71%） ■　3学期は、当番地区と1～2学期参加できなかった家庭に協力を呼びかけて3月の卒業式前に実施予定である。 ■　今年度もコロナ禍で各専門部の活動が自粛された。次年度は、今後の PTA 活動の見通しを立てて活動内容の見直しを行い、できる活動に取り組んでいきたい。			・美しい環境整備で、児童が安心して楽しく勉学している光景を見られてうれしいです。 ・現状では、可能な限り継続努力が必要と思う。 ・コロナ禍にあったPTA活動を考えていった方がいいのではないか。

【次年度の取り組みについて】

○ 授業中に振り返りの時間を確保することで、基本的な学習内容の定着を徹底させる。諸調査の結果を全職員で分析し、共通実践を図りながら学校全体の向上を目指す。また、授業改善の一つに効果的なICTの活用を取り入れるとともに、家庭学習の一環として積極的なタブレット活用の啓発を促す。

○ 自分から進んで「元気なあいさつ」ができる児童の育成を第一に掲げる。子ども同士の人間関係を敏感に察知し、関係機関を巻き込んでチームとしての早期解決を図る。また、防災教育やいのちの教育、感染症予防を中心とした「生命を守る」ための教育活動を推進する。

○ 学校と地域を結ぶコミュニティースクールを立ち上げるとともに、地域と連携した教育活動を積極的に運営する。また、学校の経営ビジョンを保護者や地域に発信する場を設け、子どもたちを共に育てていこうとする考えを醸成していく。